



自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

陸上自衛隊富士総合火力演習研修 高崎商科大学附属高等学校教諭

細野 大志



高崎商科大学附属高校

左：細野 大志先生 右：深澤 功先生

今回、ご縁があつて令和7年6月8日に開催された富士総合火力演習を研修させて頂きました。早朝の出発でしたが、参加者の多さがまず印象に残っています。

演習が一般公開されていた時期に何度か観覧の応募をしたことがあります。高い倍率のため当選したことはありませんでした。コロナ禍や国際情勢の変化から一般公開が行われなくなり、「もう生では見られない」と諦めていたところでお話だったので、今回の研修をとても楽しみにしていました。

演習場まで長時間の移動でしたが、地方協力本部の皆様のおかげで道中トラブルも無く順調で、車窓から富士山を臨みながら期待に胸を膨らませていました。

現地に到着すると、演習場に集まった自衛官の方々の緊張感がひしひしと伝わってきました。私たちが観覧した場所は会場の目と鼻の先だったので、こんな間近で見学できることにまず驚きました。演習が始まるやいなや、迅速に展開される車両や火砲など、自衛隊の練度の高さを実感しました。高度を変えずその場で長時間ホバリングするヘリコプターやさまざまな音と衝撃を放つ戦車の砲撃には驚かされました。

今回の研修で改めて気付かされたのは、自衛隊の本来の任務は国防であるということです。地震などの際に迅速に動けるのも、このような日頃の厳しい訓練の賜物に違いないでしょう。近年、変化の目まぐるしい国際情勢や相次ぐ災害など、自衛隊が注目されることが多くなりました。私たちが平和に過ごすことができるのも、自衛官の方々の努力があつて初めて実現することであり、地道な努力を日々積み重ねていらいらっしゃる皆様を、とても尊敬します。

最後に、このような機会を提供して頂いた自衛隊群馬地方協力本部の皆様へ感謝申し上げ、筆をおきたいと思ひます。

共愛学園前橋国際大学ガイダンス

～富士総合火力演習でのリアル体験・学生が思う自衛隊のイメージ～

2等海曹 山口 良明



ランチセッション



説明会



懇談

自衛隊群馬地方協力本部前橋募集案内所（所長 2等陸尉 土屋 章）は、令和7年6月11日（水）、共愛学園前橋国際大学において自衛隊ガイダンスを開催しました。

今回の自衛隊ガイダンスは、令和7年度富士総合火力演習を見学した大学3年生12名が参加し、事前に大学教授から、「自衛隊について考える」という課題が与えられていました。当日は、ランチセッションから始まり、教授と学生と共に昼食をしながら課題の「○○+○○自衛隊」について意見を出し合いました。学生からは、「筋肉」「正義感」「自衛隊、自衛隊は、訓練によって鍛えられた実践的な筋肉を持ち、様々な状況に対応できる高い身体能力を備えています。しかし、それは、単に強いというだけでなく、国民を守りたいという「正義感」があるからこそです。この二つが合わさることで自衛隊は力を正しく使う存在として多くの人から信頼されているのだと考えたからです。」「危機感」「安心感」

自衛隊、「規律」「強面」自衛隊、など一人一人が自衛隊のイメージを発表してくれました。大学3年生の自衛隊への意識や思考を知る貴重な機会となりました。

その後、自衛隊の任務、役割及び職種等についてガイダンスを行い、懇談では、「総合火力演習のスケールの大きさに圧倒される日本の防衛力の凄さを肌で感じる」ことができた貴重な体験でした。や「自衛隊へのイメージが180度変わりました」などの好意的な感想をいただきました。

前橋募集案内所は、今後も大学との信頼関係の構築を継続し、防衛省自衛隊への更なる理解を図っていきます。



記念撮影